学費の公私間格差是正、『私学も無償に』、就学支援金制度の維持・拡充

私学助成署名推進ニュース

全国私私学助成をすすめる会(事務局：全国私立学校教職員組合連合)
No.14　2024年8月26日（月）

北陸ブロックキャラバンの一環として、福井すすめる会は８月８日（木）に県大学私学課との懇談をおこないました。コロナ禍でもオンライン中継や入れ替え制などの工夫で県とのやりとりを継続してきた福井では、今回はあえて要請ではなく「懇談」として、父母・生徒の生の声を伝えるとともに、担当課の思いや苦労も聞き取るなど、国に対する共同の重要性を確かめることができました。

福井県私学の公費助成をすすめる会

すすめる会NEWS

Issue No. 15 | 2024　8月号 |　福井県庁大学私学課懇談会

初！すすめる会からの父母参加

大学私学課との懇談会

８月８日、福井県庁にて大学私学課との懇談会を行いました。例年は「要請」としてきました。その毎年の対県要請の成果が、県独自の就学支援金や経常費助成の制度拡充に繋がっていると確信しております。また、この前進は大私課の方々のご尽力あってのことです。そのため、今回はこちらの要求を伝えるだけの要請ではなく、「懇談」として福井県の教育の未来について語り合おうという共通認識を参加メンバーどうしで確かめ合って臨んだ懇談会となりました。

喜ばしいのは、すすめる会発足以来はじめての会員父母の懇談参加です。父母会員であるSさんには三人のお子さんがいらして、三男は現役の高校生。長男が高校へ進学するときには経済的な事情から「私立はやめて」と言ったそうです。しかし、福井県の授業料無償化が少しずつ進んできたことによって、三男には「私立でもよい」と言えるようになったと笑顔で語られました。Sさんは「すべての子どものしたいことを尊重できる制度」が私学助成金制度だと述べられましたが、その一方で、まだまだ課題が残されているということにも触れられました。

大学私学課のKさんは「福井県を子育てのしやすい県にしたい」「制度拡充は確かに進みましたが、まだまだ課題がある」と心強い言葉がありました。全国的な物価高騰の影響もあり、県の取り組みだけでは不足であるということも述べられました。県独自ではなく国の政策として教育の平等を実現させていくためにも、請願署名運動も同時につづけていきたいです。

また、現役高校生が３名参加しました。Aさんは「友人が、授業料無償化通知の葉書が家に届いたときに母が喜んでいたと言っていた。身近なところでポジティブな影響があって嬉しい。」と語りました。それ以外にも、三人から発言があり「教育の機会が経済格差や地域格差によって実質的に平等でない現状を変えたい」「周囲から困りの声が聞こえる限りは活動をすすめたい」と語られました。彼女たちは全国私立高校生アンケート2024の集計結果を分析し、制度拡充のおかげで私学への進路が視野に入ったという1年生が30％以上いることを大私課職員の方々へ伝えました。

子どもを育てる父母の声、当事者である高校生の声。この２者のナマの声がなくては、福井県の制度拡充はこれほどまで前進できなかったかもしれません。2018年からはじまった要請活動を振り返ると、やはりこの6年の積み重ねが現在に繋がっています。福井県の教育政策と私たちの要求が一致してきたから成し得た前進です。継続的な運動や大私課職員の方々と共同していくことの重要性を確かめ合う会となったのではないでしょうか。

懇談後は交流会！

県庁での懇談後、高校生を含めて感想交流を行いました。高校生として初めて参加したYさんは、これまでのアンケートは他人事だったが、家庭状況に対する授業料補助の現状と今回の懇談の参加を受けて「この活動をやめてはいけないと思った」と振り返りました。Aさんは懇談前の大人の打ち合わせが印象に残り、「早く大人と一緒に社会のことを考えたい」と語りました。高校生たちにとって、この懇談が自分のリアルと社会がつながる場所となりました。また大人たちにとっても、今回の懇談は県職員の苦労や教育への思いなどを聞くことができ、私たちの要求と県職員の願いが編まれていく感覚を得ました。これからも社会をより良くしていくために、私たちの声をアンケートや言葉にして伝え続けていくことが必要であると確信しました。

担当：横山　和歌那